

豊橋ゴールデンロータリークラブ は、こんなクラブです

創 立 1988年(昭和63年)10月28日

会 員 数 58人(2025年7月現在)

例 会 日 時 毎週金曜日12:30～13:30
(祝日、年末年始、お盆等は休会)

例 会 場 豊橋ゴールデンロータリークラブ事務局
(愛知県豊橋市藤沢町141ロワジュール
ホテル豊橋 本館9階926号室)

年 会 費 30万円(年2回に分納)

入 会 金 10万円(入会時)

「金曜日に集う楽しい仲間達」を合言葉に誕生しました。例会場はロワジュールホテル豊橋。ホテル最上階30階で行う例会は豊橋の街並みを一望できる絶景。

私たちの活動にご参加下さい。

連絡先

豊橋ゴールデンロータリー クラブ事務局

〒441-8061

愛知県豊橋市藤沢町141

ロワジュールホテル豊橋 本館9階926号室

TEL 0532-35-9973

FAX 0532-39-3743

E-mail:golden@toyohashi-golden-rc.gr.jp



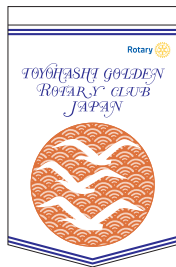
ホームページ



Instagram



Facebook



四つのテスト

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

この人もロータリアン

●日本で

松下幸之助／千玄室／瀬戸内寂聴／司葉子
藤山一郎／清家清／御木本豊彦／服部禮次郎

●世界で

トーマス・エジソン／ジョン・F・ケネディ
マーガレット・サッチャー
ウォルト・ディズニー／カーネル・サンダース
トーマス・マン／マルコーニ
シュバイツァー／チャーチル
J・C・ペニー／ルーズベルト／アイゼンハワー



ロータリーマークは歯車を表しています。
創立当時、会員の事業所をまわって
例会をしていたことにちなみ、
ロータリークラブという名称になりました。

Memo



第2760地区
ホームページ



こんにちは、
豊橋ゴールデンロータリークラブ
です



豊橋ゴールデンロータリークラブ
2025～2026年 理事・役員一同



夏の家族会

ロータリーに入ると何が変わるのか？

皆さんはロータリーを知っていますか。

ロータリーは1905年にシカゴでポールハリスによって作られました。

何故作られたのか。それは彼がひとりぼっちで寂しかったからです。みなさんはどうですか。日常の愚痴を聞いてくれる人がいますか。困った時に相談できる人がいますか。一緒に何かを成し遂げる人がいますか。

真剣に話し合える人が欲しいとは思いませんか。それを叶えてくれるのがロータリーではないかと思えます。ロータリーには仕事のこと家庭のことなどを親身になって相談にのってくれる人たちはどのクラブにも必ずいます。安心できる仲間を探すにはあなたは月数回の例会に出席し奉仕活動をしてみてください。気が付くと仲間に恵まれ以前と違う自分になっているのです。ロータリークラブに入会して皆さんも生涯の友を見つけようではありませんか。

Q&A

Q1. 会員にはどのような方がいますか？

A1. クラブの会員構成は老若男女・一業種一人を原則とした業界を代表する個性あふれる方々の集まりです。

Q2. 例会とはなんですか？

A2. 会員相互の交流や情報共有の場となる会合です。社会貢献活動を計画する場としても重要な役割を果たします。

Q3. 入会するのに何か制限がありますか？

A3. 性別、職業、人種などに制限なく、地域社会で良い評価を受け、奉仕する意欲のある成人であれば問題ありません。

ロータリークラブの奉仕活動



●ポリオ根絶活動

ポリオは麻痺が残ることもあるウイルス感染症で、ワクチンで予防できます。世界中のクラブが力を合わせてポリオ根絶に取り組んでいます。



●ロータリー・フードフェスティバル(RFF)

もっともっとロータリーを知ってほしい！愛知県内の全84クラブが集い、収益金はポリオ根絶等奉仕活動の資金になります。



●国際奉仕

世界各地で助けを必要とする人たちのために様々な活動しています。この写真は、ラオスの小学校にマンゴーの苗木を植樹しているところです。



●米山記念奨学事業

外国人留学生を支援しています。奨学生はクラブに迎えられ、返済義務のない奨学金を得て学業に専念することができます。

豊橋ゴールデンロータリークラブの奉仕活動



●地区補助金事業

豊橋動植物公園の「のんほいパーク」に絶滅危惧種保全活動の一環として、絶滅危惧種の動物の骨格レプリカや3D印刷による頭骨(地元企業製作)や解説用のパネル等の教育用キットを寄贈し、市内の小学生たちに全滅危惧種保全のための取組みを具体的に考える事業を実施しました。

●教育向上へ通学問題解消

ベトナム国の地方都市であるDAKLAK省の小学校では貧困家庭や少数民族の言語の問題から経済的に貧しい家庭が多く自転車も購入できず徒歩で1時間～3時間をかけて通学をしているのが現状である。そして通学問題の解消として「新車の自転車を70台」を小学校に寄贈し「基本的教育と識字率の向上」を目的とした事業を実施しました。

